

荒川水系

荒川左岸ブロック河川整備計画 《県管理区間》 (変更) 附 図

令和 7 年 1 月
(当初 平成 18 年 2 月)

埼 玉 県

目次

芝川・新芝川	1
芝川（旧芝川）	5
藤右衛門川・藤右衛門川放水路	9
堅川	11
菖蒲川	15
緑川	19
笹目川	23
鴨川	25
鴻沼川	29
江川	33

流域および河川の概要

- 芝川・新芝川は、桶川市周辺の大宮台地を水源とし、台地の谷底低地から荒川低地へと流れ込み、芝川水門を経て荒川に合流する流域面積 96.79km²、流路延長 26.1km の一級河川である。
- 桶川市中部、上尾市東部、さいたま市東部、川口市西部、鳩ヶ谷市西部を流域に持っており、以前は、旧芝川と呼ばれる河道を流路として荒川に合流していた。しかし、度重なる洪水被害の軽減のために、下流域に放水路（新芝川）を開削した。
- 芝川・新芝川の特徴は、中流域に見沼田園が広がっていることである。見沼田園は東京から 20～30km 圏に位置し、水田・畑を主とする緑地があり、周辺の斜面林や河川等の水辺とともに一体となった田園景観を有し、首都圏における緑地群の拠点となるべき地域である。下流域においては、ほぼ全域が市街地で人口密度が高く、資産が集中しており、流域の約 9 割が市街化区域に指定されている。下流部は東京湾の潮位の影響を受ける感潮河川となっている。

河川整備の概要

- 芝川・新芝川は八丁橋（11.70km）から下流の区間については、洪水による被害の防止や軽減の目標を達成している。よって、河川工事は、八丁橋（11.70km）から見沼代用水伏越（26.10km）までの合計 14.40km において、築堤、河道拡幅、河床掘削、合流点処理を行い、流下能力の向上を図る。
- また、13.20km 地点の左右岸に調節池を整備し、洪水流量の低減を図るとともに、自然を活かした川の整備、親水性の確保、優れた自然環境の保全を図る。
- また、地域協議会により策定された第二期水環境改善緊急行動計画にもとづき、水質改善や流量確保に資する河川の浄化や環境整備を行う。

整備にあたっての配慮事項

- 芝川の改修は、「見沼田園の保全・活用・創造の基本方針」にもとづき工事を実施する。
- 水域に多様な流れを創り出し、水際域には多種多様な生物が生育生息できる環境を確保する。
- 第 1 調節池周辺は、都市近郊の大規模緑地空間である見沼田園があるため、調節池整備にあたっては、見沼田園の自然環境の保全、創造、回復に役立つような空間づくりを目指す。そして、環境復元、環境創造、空間活用を目的とした各ゾーンを整備し、生物の生息環境を創造し、また、人々がレクリエーションを楽しめる場となるようにする。
- 管理用通路などの陸域については、関係機関や地域住民と連携、協力して有効活用を図る。

流域図



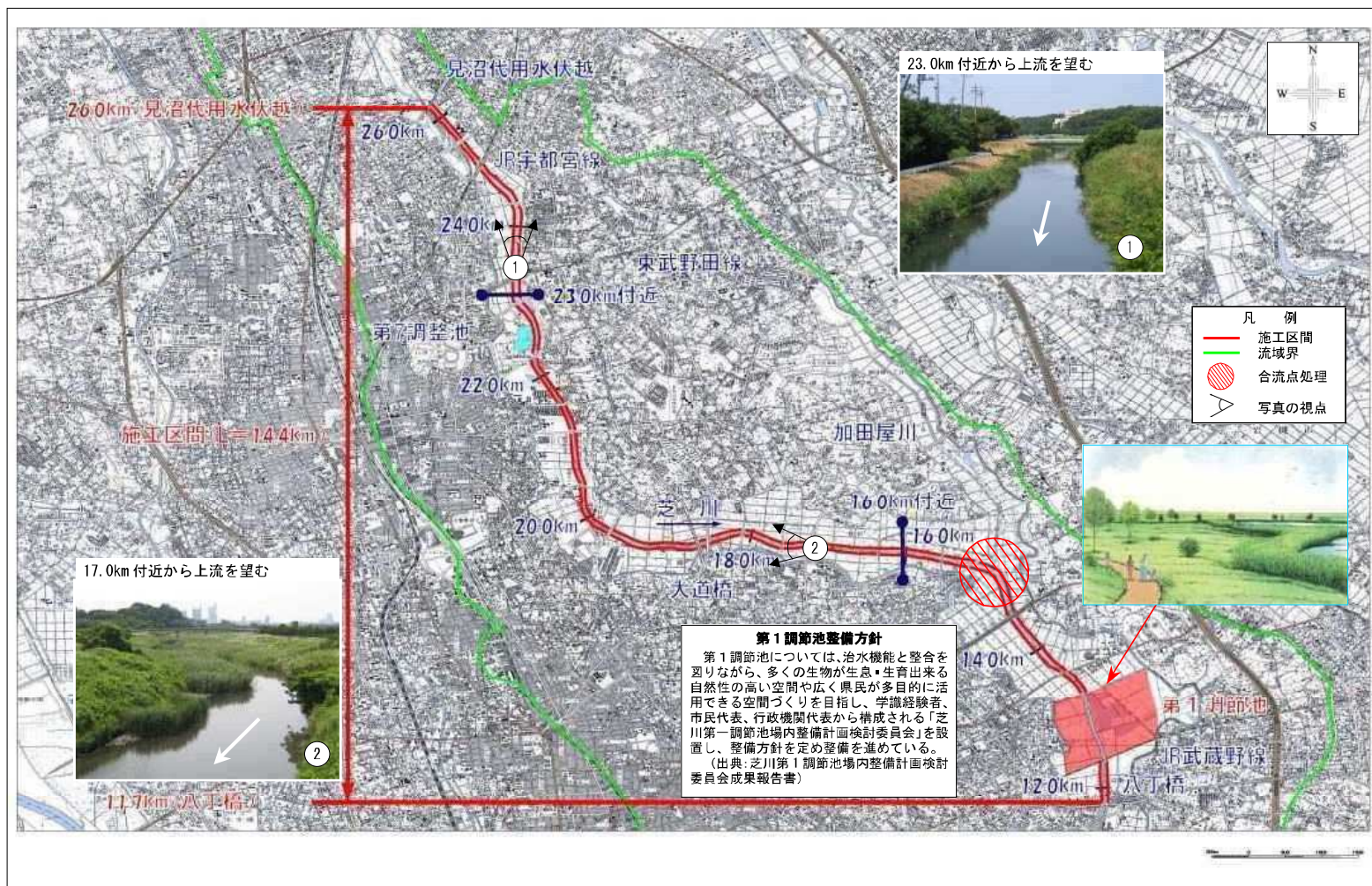
河川沿いの状況

芝川 2.5km 付近

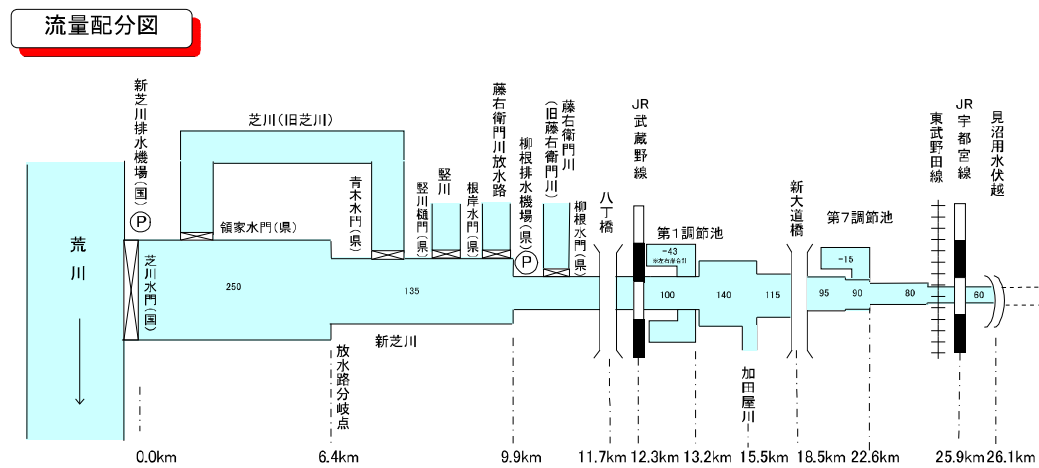
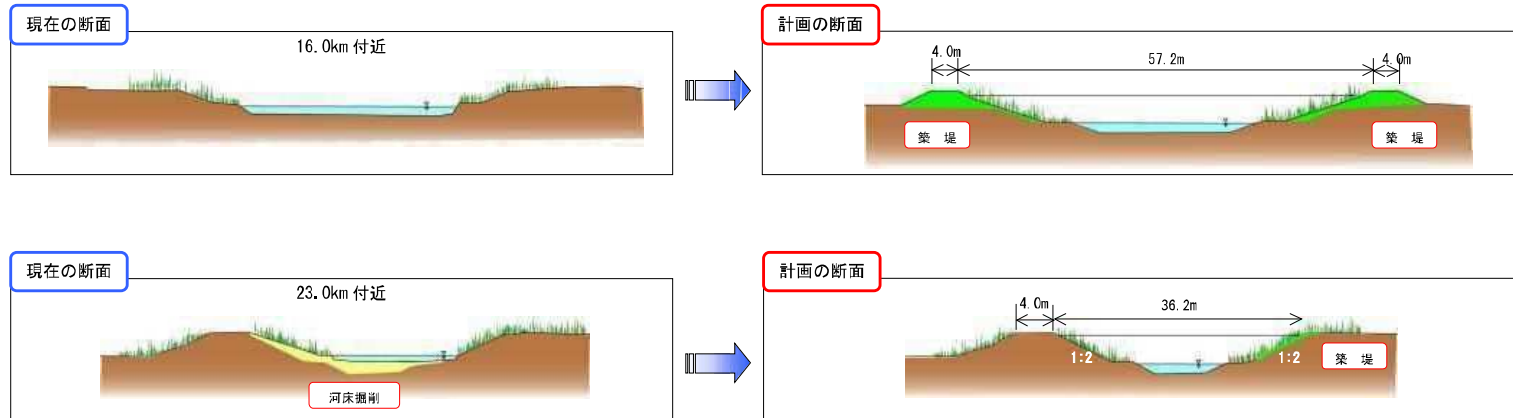


芝川 16.5km 付近

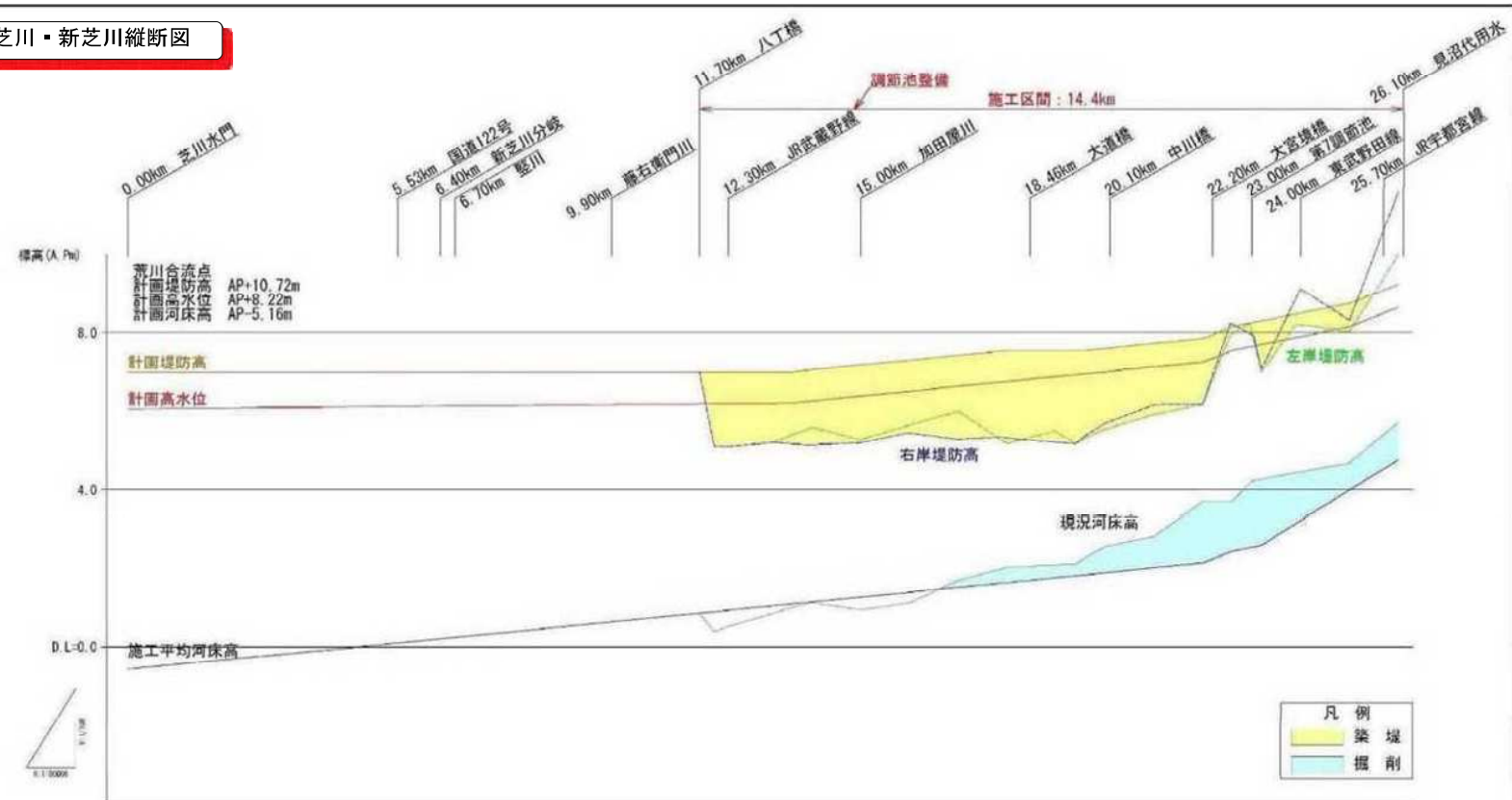




芝川整備平面図 S = 1 / 50,000



芝川・新芝川縦断面図



計画	計画堤防高	計画高水位	施工平均河床高	測点
	6.05	6.07	6.09	0.0K
	6.07	6.09	6.10	1.0K
	6.09	6.11	6.11	2.0K
	6.10	6.12	6.12	3.0K
	6.11	6.13	6.13	4.0K
	6.12	6.14	6.14	5.0K
	6.13	6.15	6.15	6.0K
	6.14	6.16	6.16	7.0K
	6.15	6.17	6.17	8.0K
	6.16	6.18	6.18	9.0K
	6.17	6.19	6.19	10.0K
	6.18	6.20	6.20	11.0K
	6.19	6.21	6.21	12.0K
	6.20	6.22	6.22	13.0K
	6.21	6.23	6.23	14.0K
	6.22	6.24	6.24	15.0K
	6.23	6.25	6.25	16.0K
	6.24	6.26	6.26	17.0K
	6.25	6.27	6.27	18.0K
	6.26	6.28	6.28	19.0K
	6.27	6.29	6.29	20.0K
	6.28	6.30	6.30	21.0K
	6.29	6.31	6.31	22.0K
	6.30	6.32	6.32	23.0K
	6.31	6.33	6.33	24.0K
	6.32	6.34	6.34	25.0K
	6.33	6.35	6.35	26.0K

流域および河川の概要

- 芝川（旧芝川）は芝川下流部に位置し、川口市や鳩ヶ谷市周辺の荒川低地に発達した市街地を水源、流域としている、流域面積 18.45km²、流路延長 5.50km の一級河川である。
- 最上流部は青木水門、最下流部は領家水門によって常時閉鎖されており、そのため普段は竪川排水路樋門脇よりフロードゲートにより新芝川の水を浄化導水として流し込み、元郷排水機場から荒川にポンプ排水される。洪水時には竪川の水が流れ込み、芝川、元郷の両排水機場から荒川にポンプ排水される。芝川（旧芝川）は以前、芝川の下流部であったが、度重なる洪水被害の軽減のため、放水路（新芝川）が開削されて、中上流部の水はすべて新芝川に流すようになった。
- 芝川（旧芝川）の特徴は、流域内のほぼ全域が川口市の市街地で、人口密度が高く、資産の集中している地域であることである。また、流域の全域が市街化区域に指定されている。



流域図



河川整備の概要

- 河川工事は門樋橋（2.18km）から青木水門（5.50km）までの合計 3.32km において、河床掘削、護岸整備、管理用通路などの整備を行い、親水性の向上を図る。
- また、地域協議会により策定された第二期水環境改善緊急行動計画にもとづき、水質改善や流量確保に資する河川の浄化や環境整備を行う。

整備にあたっての配慮事項

- 芝川（旧芝川）は都市を流れる河川であるため、地域住民との関わりが強く、河川環境を重視し、住民の憩いの場となるような親しみの持てる川を創出する。
- 周辺の景観を生かした護岸等の植生と、都市部の貴重な河川空間として、管理用通路を有効利用する。

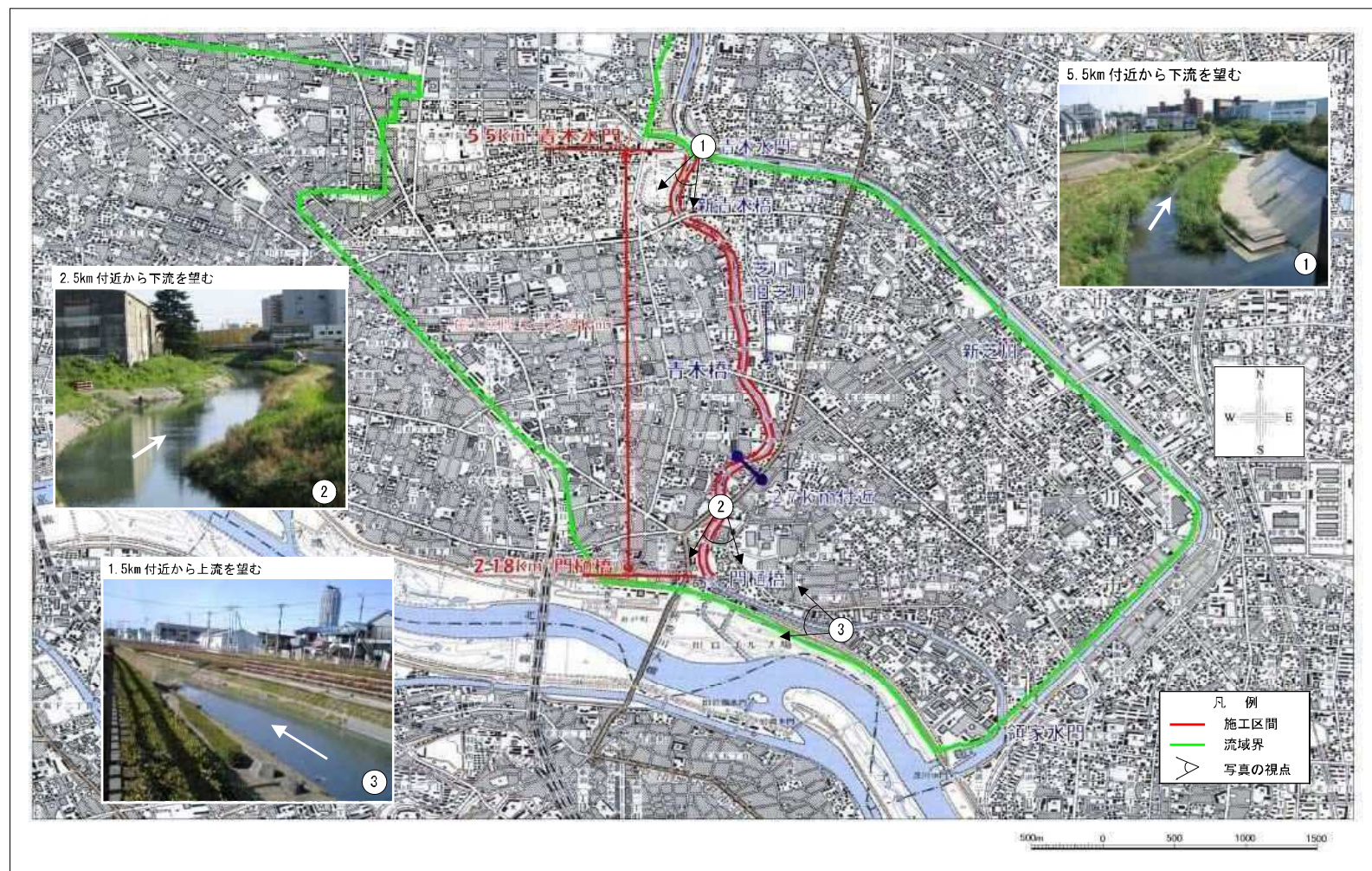
河川沿いの状況

芝川（旧芝川）1.5km 付近

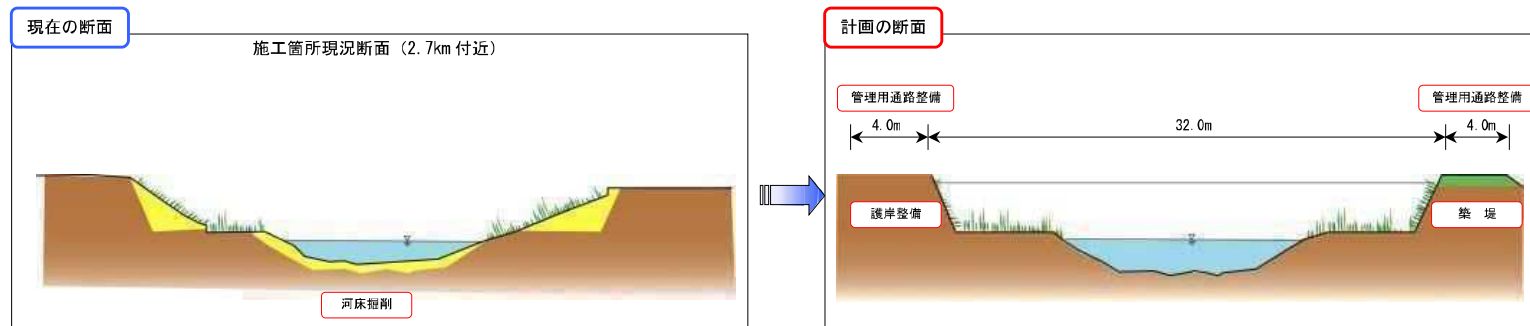


芝川（旧芝川）4.0km 付近

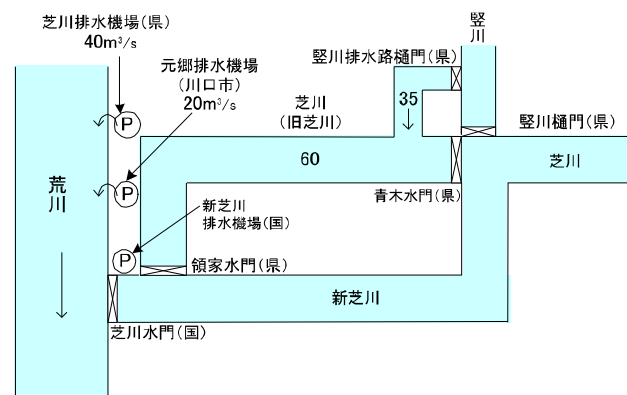




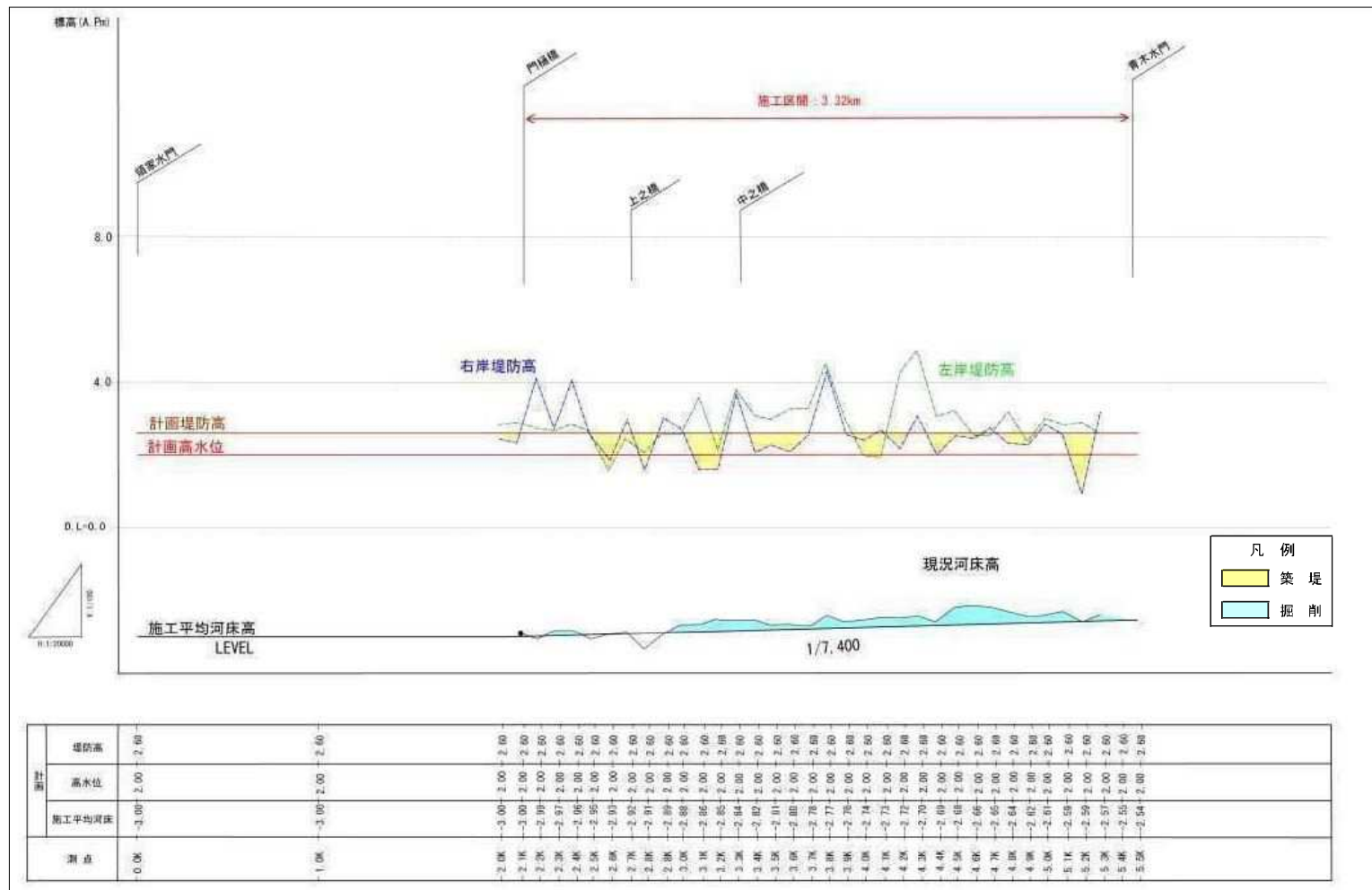
芝川（旧芝川）整備平面図 $S = 1/25,000$



流量配分図



芝川（旧芝川）縦断面図



流域および河川の概要

- 藤右衛門川・藤右衛門川放水路は、さいたま市周辺の大宮台地に発達した市街地を水源とし、台地の谷底低地から荒川低地に流れ込み、根岸水門から芝川に合流する、流域面積 9.30km²（旧藤右衛門川流域 8.76km²を除く）、流路延長 4.30km の一級河川である。
- さいたま市中部を流域に持っており、藤右衛門川は以前、藤右衛門川（旧藤右衛門川）から芝川に合流していた。しかし度重なる浸水被害軽減のため、下流部に放水路（藤右衛門川放水路）が開削され、上流部の水はすべて放水路に流れるようになった。
- 藤右衛門川・藤右衛門川放水路の特徴は、昭和 35 年頃から台地部の都市化が進展し、やがて沿川の低地部にも住宅が建ち並び、人口密度が高い地区となったことであり、流域の全域が市街化区域に指定されている。

河川整備の概要

- 藤右衛門川・藤右衛門川放水路は、河道については浸水被害の防止、軽減のための目標を達成している。よって、河川工事は、上谷沼調節池（2.4km 左右岸）の整備を行い、洪水流量の低減を図るとともに、親水性を確保する。
- また、地域協議会により策定された第二期水環境改善緊急行動計画にもとづき、水質改善や流量確保に資する河川の浄化や環境整備を行う。

整備にあたっての配慮事項

- 河川工事にあたっては、調節池周辺の環境に調和した整備を行う。都市部の貴重なオープンスペースとして、レクリエーション利用等に配慮して整備する。

流域図



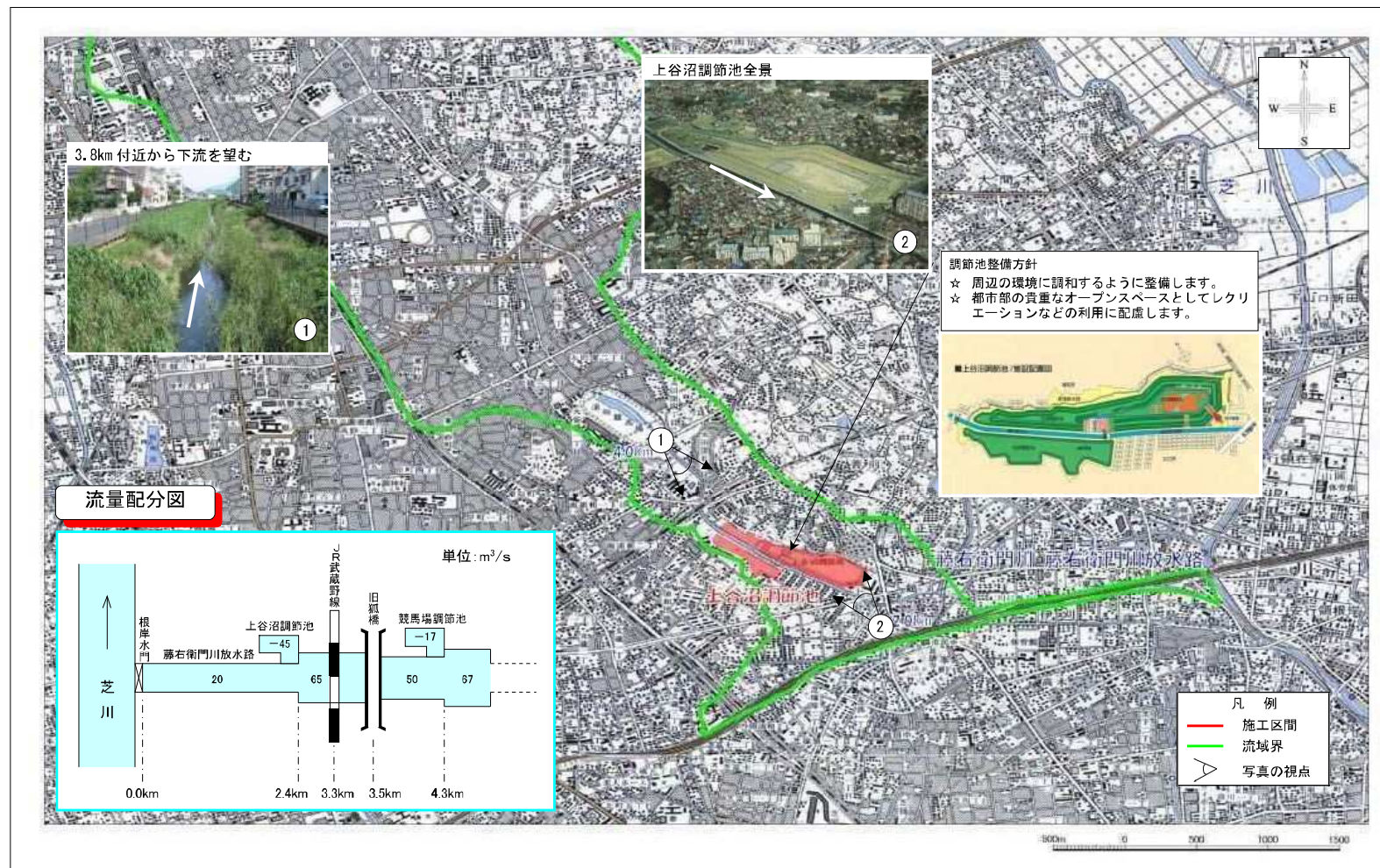
河川沿いの状況

3.5km 付近



上谷沼調節池





藤右衛門川・藤右衛門川放水路整備平面図 S = 1/25,000

流域および河川の概要

- 縦川は、川口市西部の荒川低地に発達した市街地を水源、流域に持ち、芝川へ合流する、流域面積 6.86km²、流路延長 3.40km の一級河川である。
- 普段は縦川樋門を経て芝川へ合流するが、洪水時は、縦川樋門が閉鎖され、縦川排水路樋門により芝川（旧芝川）に合流する。
- 縦川の特徴は、流域が川口市の密集市街地であり、河川沿いに住宅が建ち並び、人口密度が高い地区となっていることであり、流域の全域が市街化区域に指定されている。また、東京湾の潮位の影響を受ける感潮河川である。

河川整備の概要

- 縦川は、緑川合流点（1.82km）から下流区間は浸水被害の防止、軽減のための目標を達成している。よって、河川工事は、緑川合流点（1.82km）から葭陸橋（3.40km）までの一部流下能力が不足する箇所（合計 1.58km）において、河道拡幅、河床掘削を行い、流下能力の向上を図るとともに、自然を活かした川の整備と親水性の確保を図る。
- また、地域協議会により策定された第二期水環境改善緊急行動計画にもとづき、水質改善や流量確保に資する河川の浄化や環境整備を行う。

整備にあたっての配慮事項

- 水域、水際域では平坦な河床を避け、みお筋と低水路を整備する。また、周辺が住宅地であることより、地域も住民の憩いの場となるように、周辺の景観を生かして整備する。

流域図



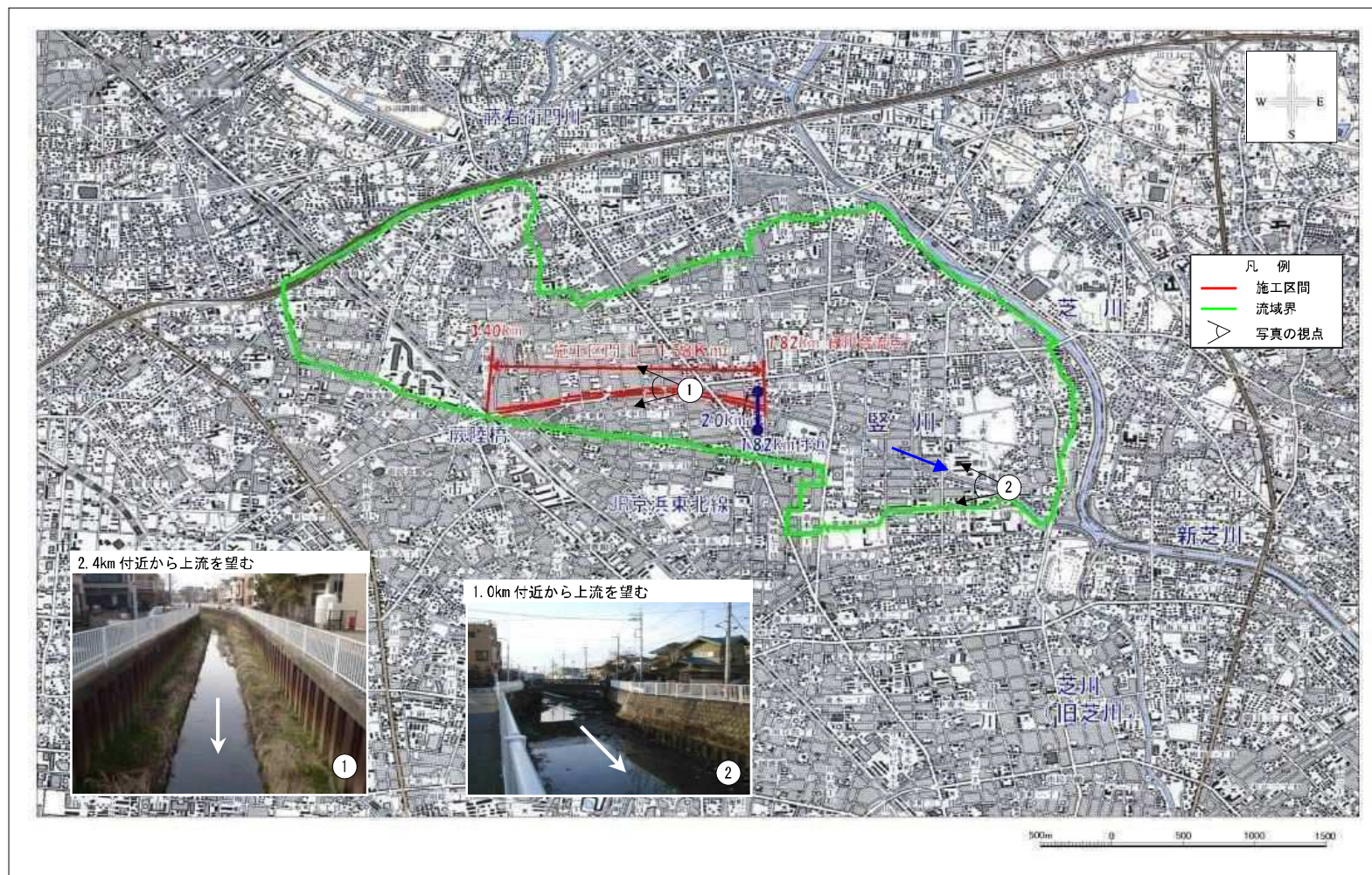
河川沿いの状況

0.0km 付近

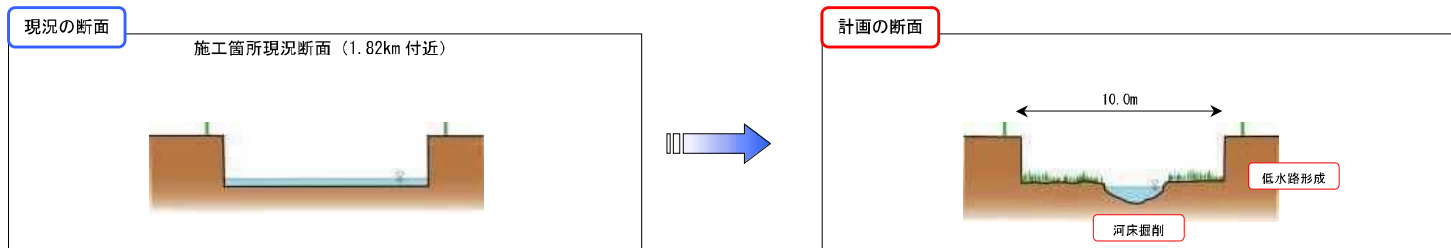


1.5km 付近

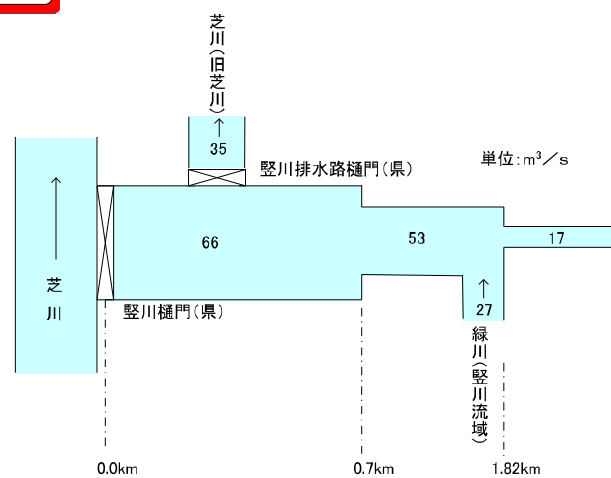




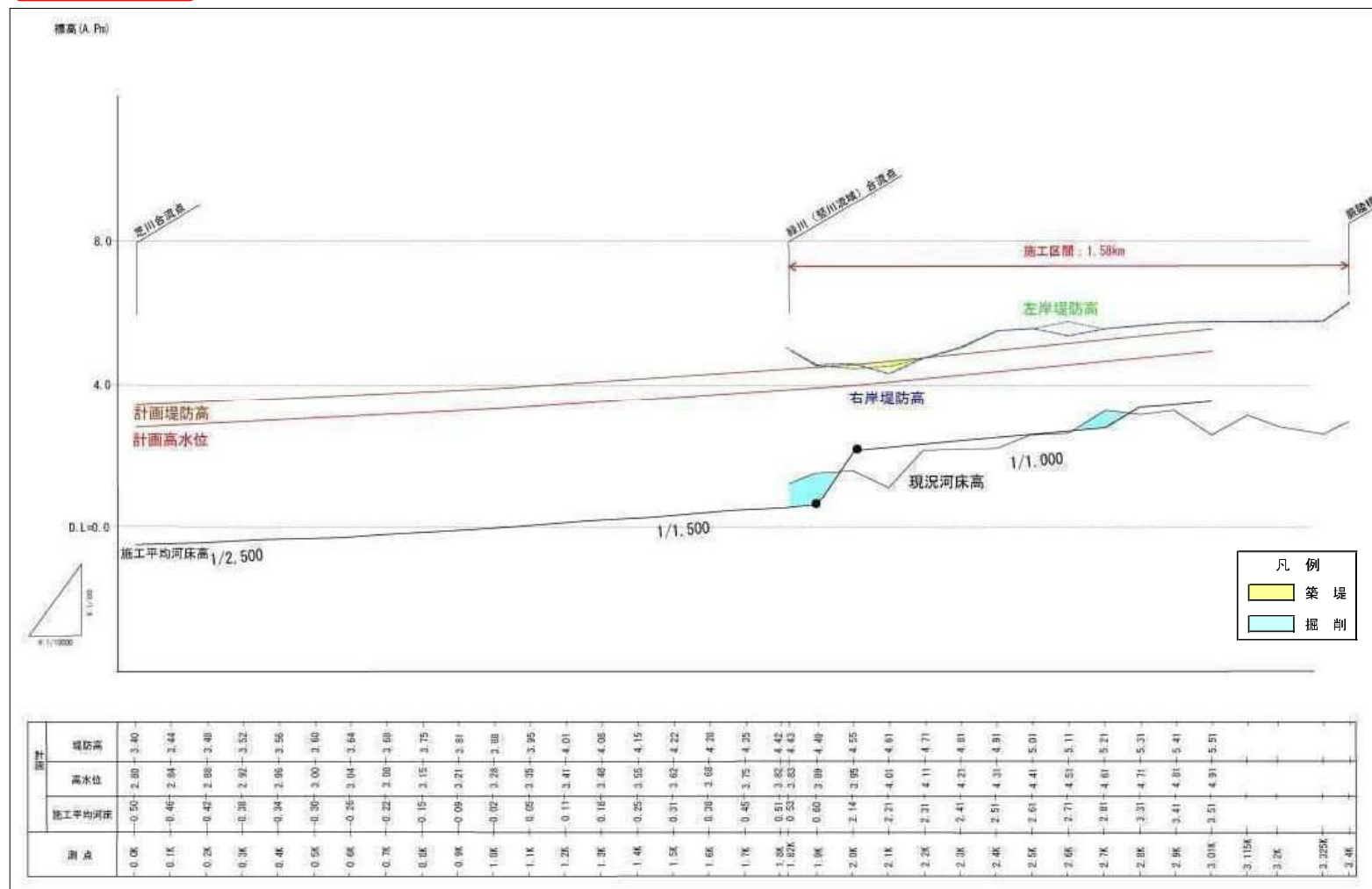
薩摩川整備平面図 S = 1/25,000



流量配分図



竖川縦断面図



流域および河川の概要

- 菖蒲川は、戸田市中心部、蕨市西部の荒川低地に発達した市街地を水源、流域に持ち、三領水門を経て荒川に合流する流域面積 14.55km²、流路延長 3.05km の一級河川である。
- 菖蒲川の特徴は、宅地の他、工場・倉庫などが立地する戸田市街地を流れる典型的な都市河川であることで、流域の全域が市街化区域に指定されている。また、東京湾の潮位の影響を受ける感潮河川である。

河川整備の概要

- 河川工事は、三領水門（0.00km）から上戸田川合流点（3.05km）までの区間において河床掘削、護岸の整備を行い、流下能力の向上を図るとともに、親水性の確保を図る。
- また、地域協議会により策定された第二期水環境改善緊急行動計画にもとづき、水質改善や流量確保に資する河川の浄化や環境整備を行う。

整備にあたっての配慮事項

- 周辺が住宅地であることから、地域住民の憩いの場となるように、周辺の景観を生かした緑化護岸等により川らしさを創出する。

流域図



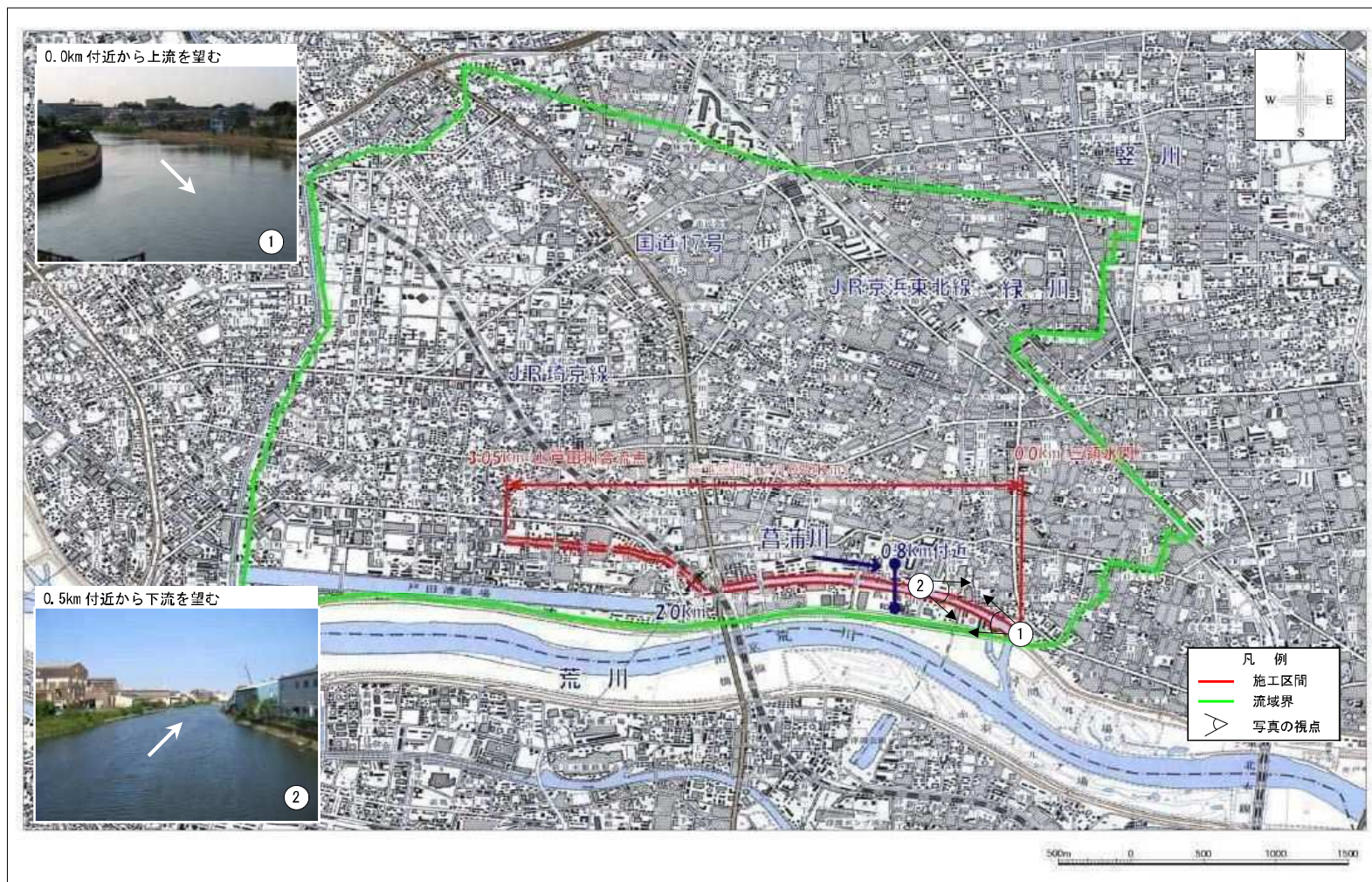
河川沿いの状況

2.0km 付近

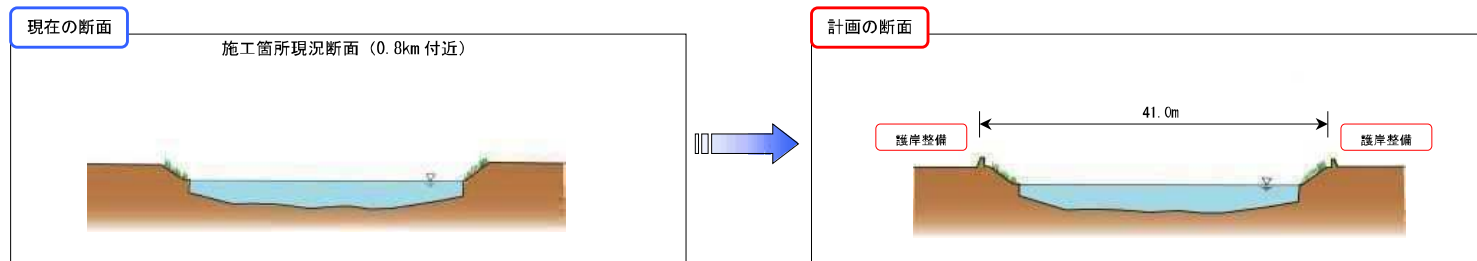


3.0km 付近

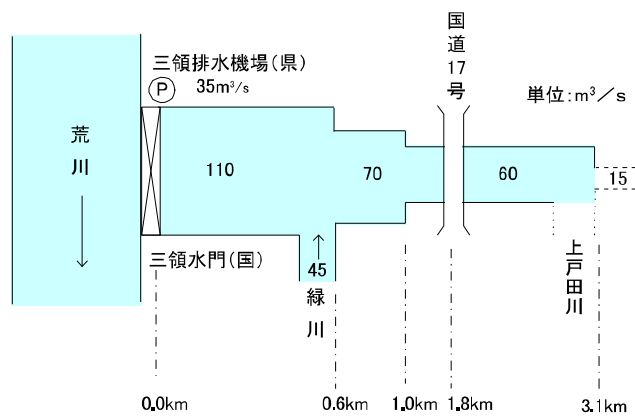




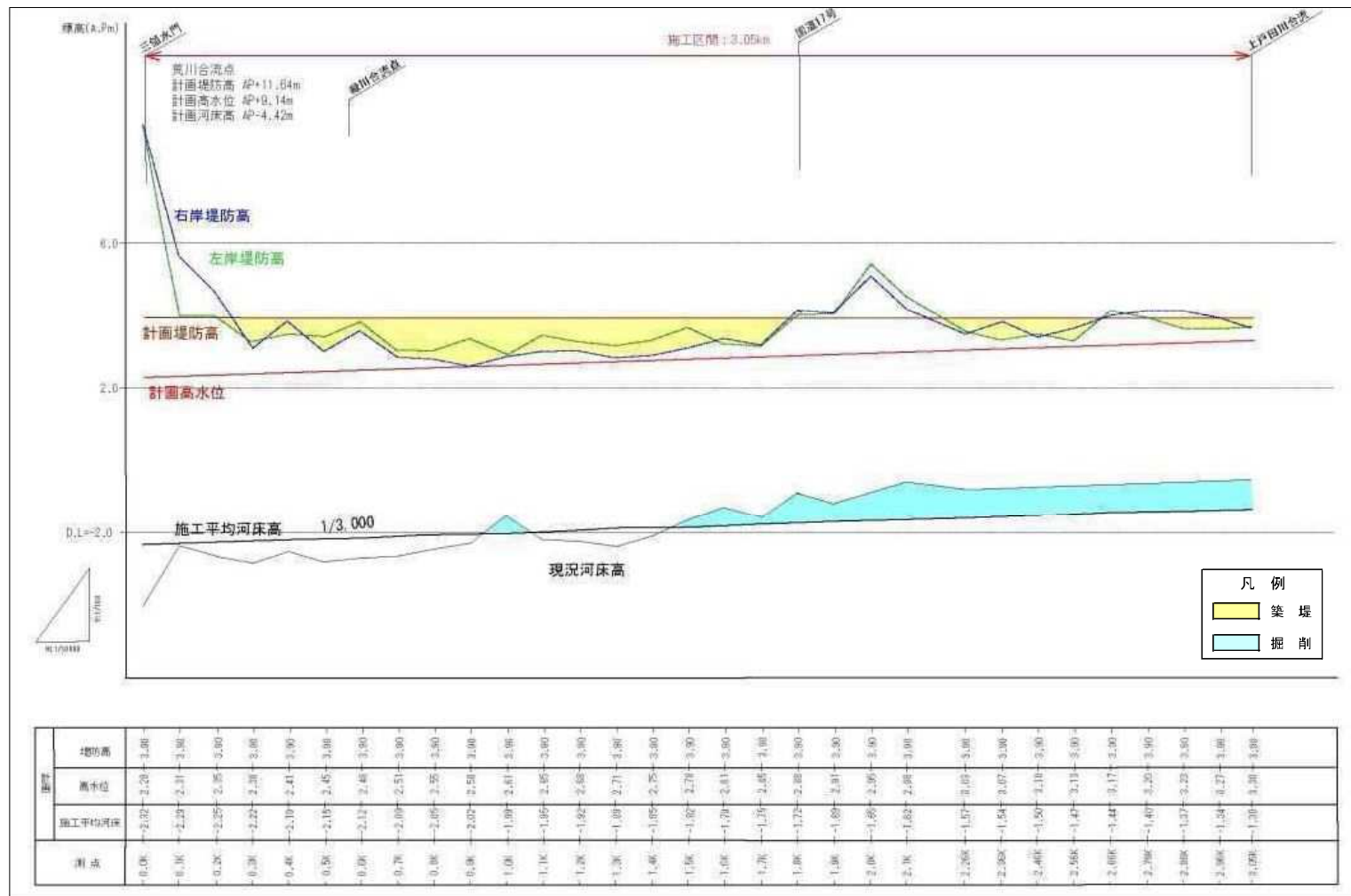
菟浦川整備平面図 $S = 1/25,000$



流量配分図



菖蒲川縦断面図



流域および河川の概要

- 緑川は、川口市南部、蕨市東部、戸田市東部の荒川低地に発達した市街地を水源、流域に持ち、菖蒲川に合流する、流域面積 4.75km²、流路延長 3.3km の一級河川である。
- 緑川（豎川流域）は以前、豎川を伏せ越して流下し、菖蒲川に合流していたが、伏せ越しが撤去され、上流部の水はすべて豎川に合流するようになった。
- 緑川の特徴は、川口市、蕨市、戸田市の人口密度の高い住宅街を流下する典型的な都市河川であることで、流域の全域が市街化区域に指定されている。また、東京湾の潮位の影響を受ける感潮河川である。

河川整備の概要

- 緑川では、立野際橋（0.75km）から下流区間では浸水被害の防止、軽減のための目標を達成している。よって、河川工事は、立野際橋（0.75km）から中田橋（3.00km）までの合計 2.25km において、河道拡幅、河床掘削を行い、自然を活かした川の整備や親水性の確保を図る。

整備にあたっての配慮事項

- 河川工事にあたっては、水域では平坦な河床を避け、みお筋を形成させる。水際域では多種多様な生物が生育生息できる護岸の整備を行い、都市部の貴重な河川空間の有効利用を図る。

流域図



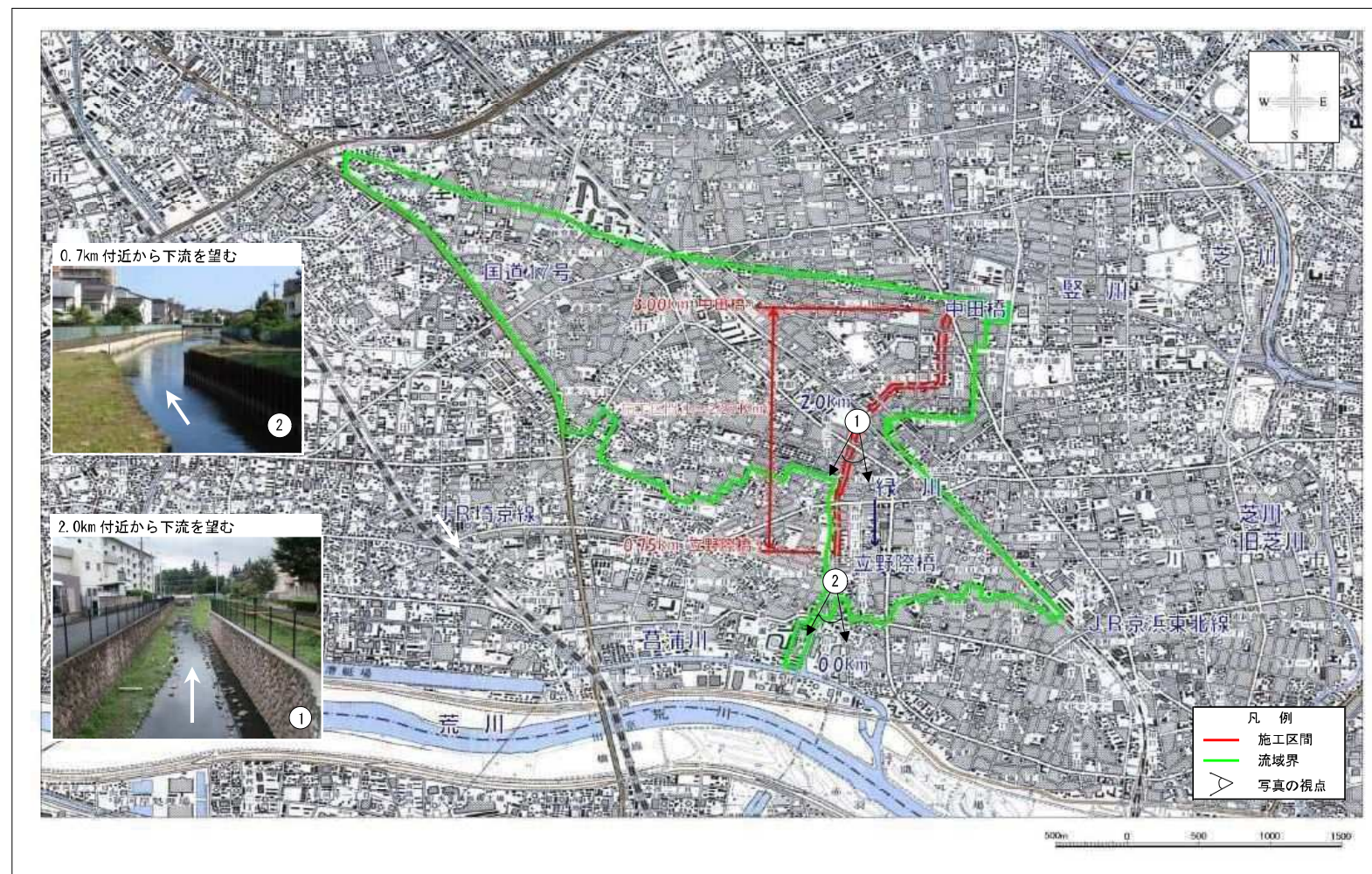
河川沿いの状況

0.0km 付近



1.5km 付近





緑川整備平面図 S = 1/25,000

現在の断面

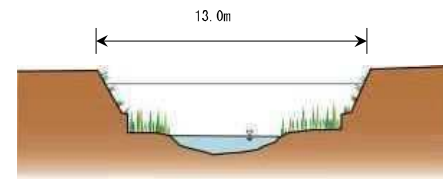
施工箇所代表断面図（1.4km 付近）



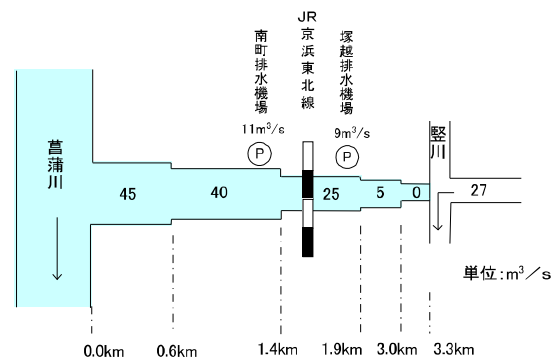
河床掘削・河道拡幅



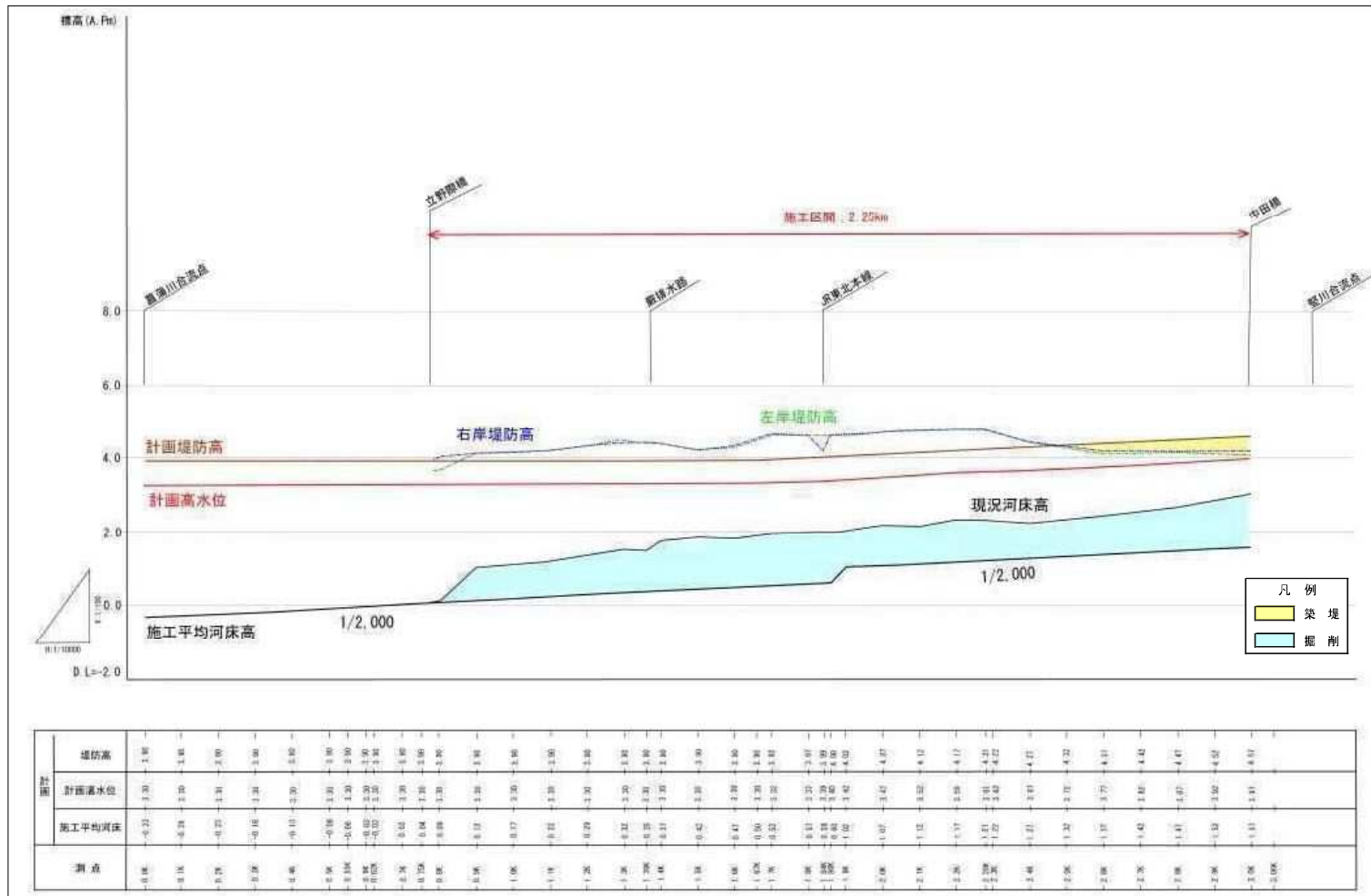
計画の断面



流量配分図



緑川縦断面図



流域および河川の概要

- 笹目川は、さいたま市白幡を起点とし、中山道以西の主要市街地を水源として、笹目水門を経て荒川に合流する流域面積 20.56km²、流路延長 5.11km の一級河川である。
- 笹目川の特徴は、流域内に行政機関庁舎や商業・業務系施設等が集積している典型的な都市河川であることで、流域の全域が市街化区域に指定されている。また、東京湾の潮位の影響を受ける感潮河川である。

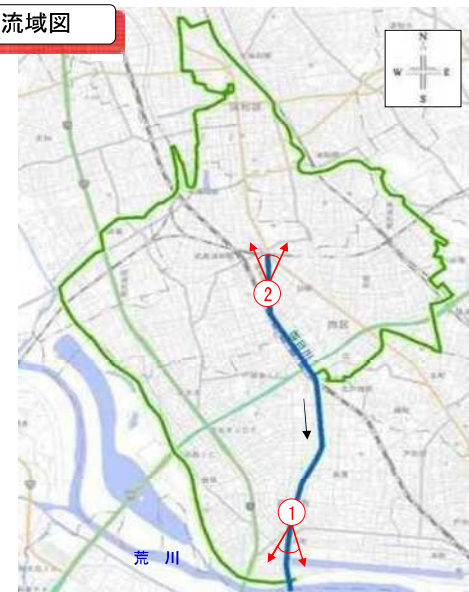
河川整備の概要

- 排水機場の増設及び戸田漕艇場の接続水路入口への新たな樋門の設置により、流域の浸水被害の軽減を図る。
- 河道については浸水被害の防止、軽減のための目標を達成しているため、適切な河川の維持管理に努めていく。
- また、地域協議会により策定された第二期水環境改善緊急行動計画にもとづく目標値を継続的に維持するため、水質改善や流量確保に資する河川の浄化や環境整備に努める。

整備にあたっての配慮事項

- 周辺の生態系に配慮して整備を行う。
- 地域住民の憩いの場となるように、景観と調和した親しみやすい川づくりに配慮する。

流域図



河川沿いの状況

0.35km 付近（荒川合流地点付近）



4.5km 付近





笹目川整備平面図 S = 1/25,000

流域および河川の概要

- 鴨川は、上尾市北部の大宮台地を水源とし、台地の谷底低地から荒川低地を流下し、昭和水門を経て荒川に合流する流域面積 63.69km²、流路延長 17.8km の一級河川である。
- 桶川市南部、上尾市中部、さいたま市西部を流域に持っており、鴨川の特徴は、国道 17 号、JR 高崎線、JR 宇都宮線沿いに桶川市からさいたま市にわたり市街地が形成され、流域の約 9 割が市街化区域に指定されている。

河川整備の概要

- 鴨川では、多くの区間で浸水被害の防止、軽減のための目標を達成している。よって、河川工事は、学校橋付近 (4.76km) から 4.82km までの右岸側 0.06km、4.94km から 4.97km までの右岸側 0.03km、茅橋付近 (8.52km) から 8.58km までの左岸側 60m の合計 0.15km において河道拡幅、河床掘削を行い、流下能力の向上を図るとともに、親水性の確保を図る。
- 水環境の改善に努める。

整備にあたっての配慮事項

- 地域住民の憩いの場となるように、景観と調和した親しみやすい川づくりに配慮する。
- 整備にあたっては、上下流の整備済区間とのすりつけや、周辺の景観に配慮した親しみやすい川づくりを行っていく。

流域図



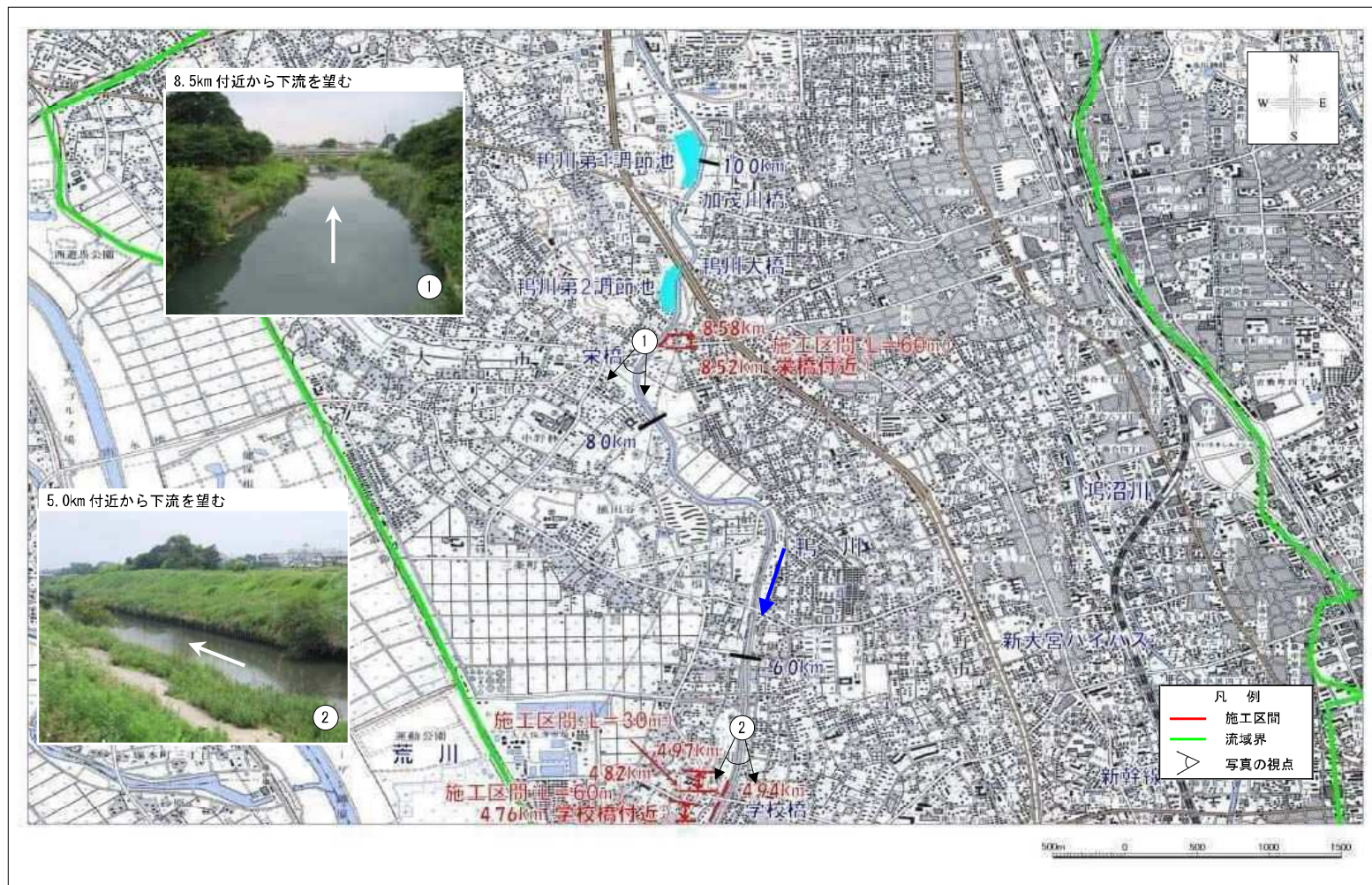
河川沿いの状況

4.0km 付近

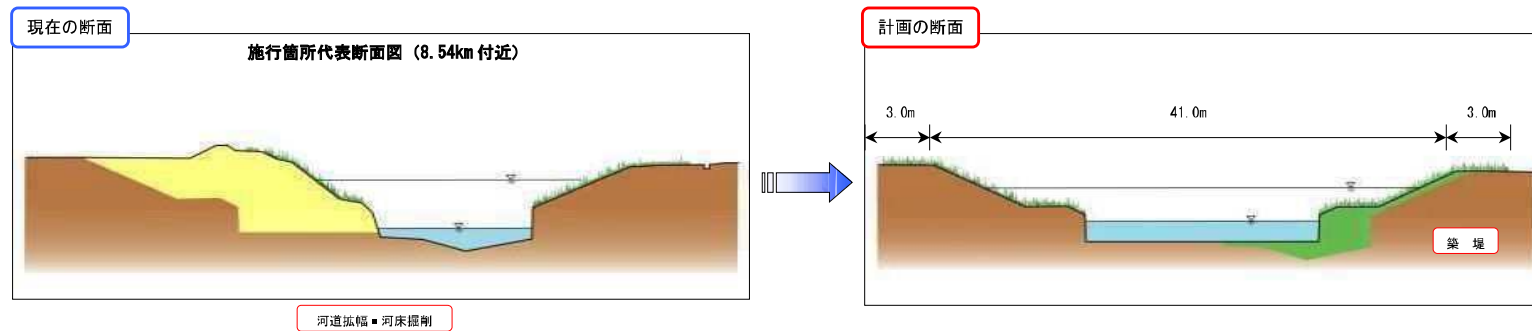


13.0km 付近

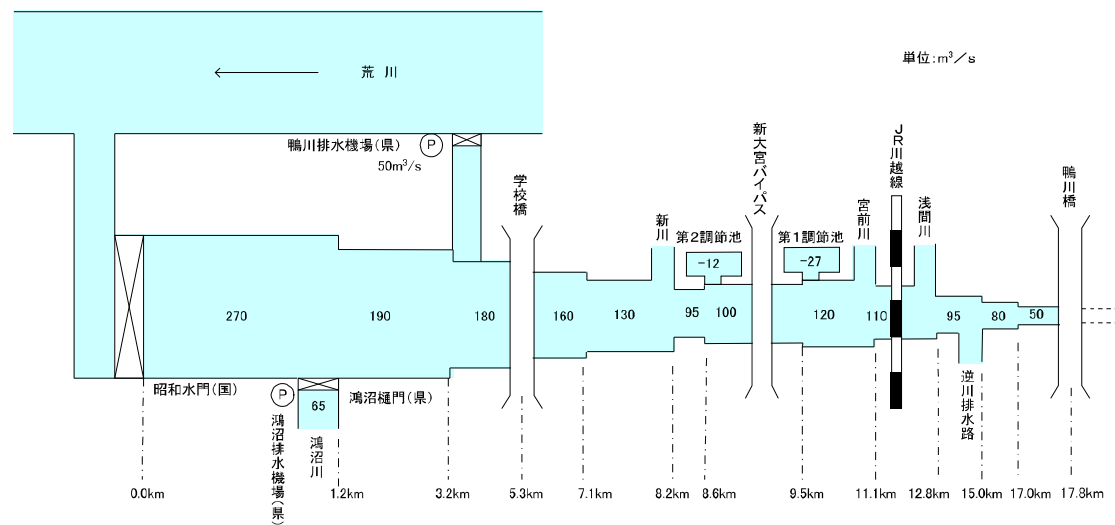




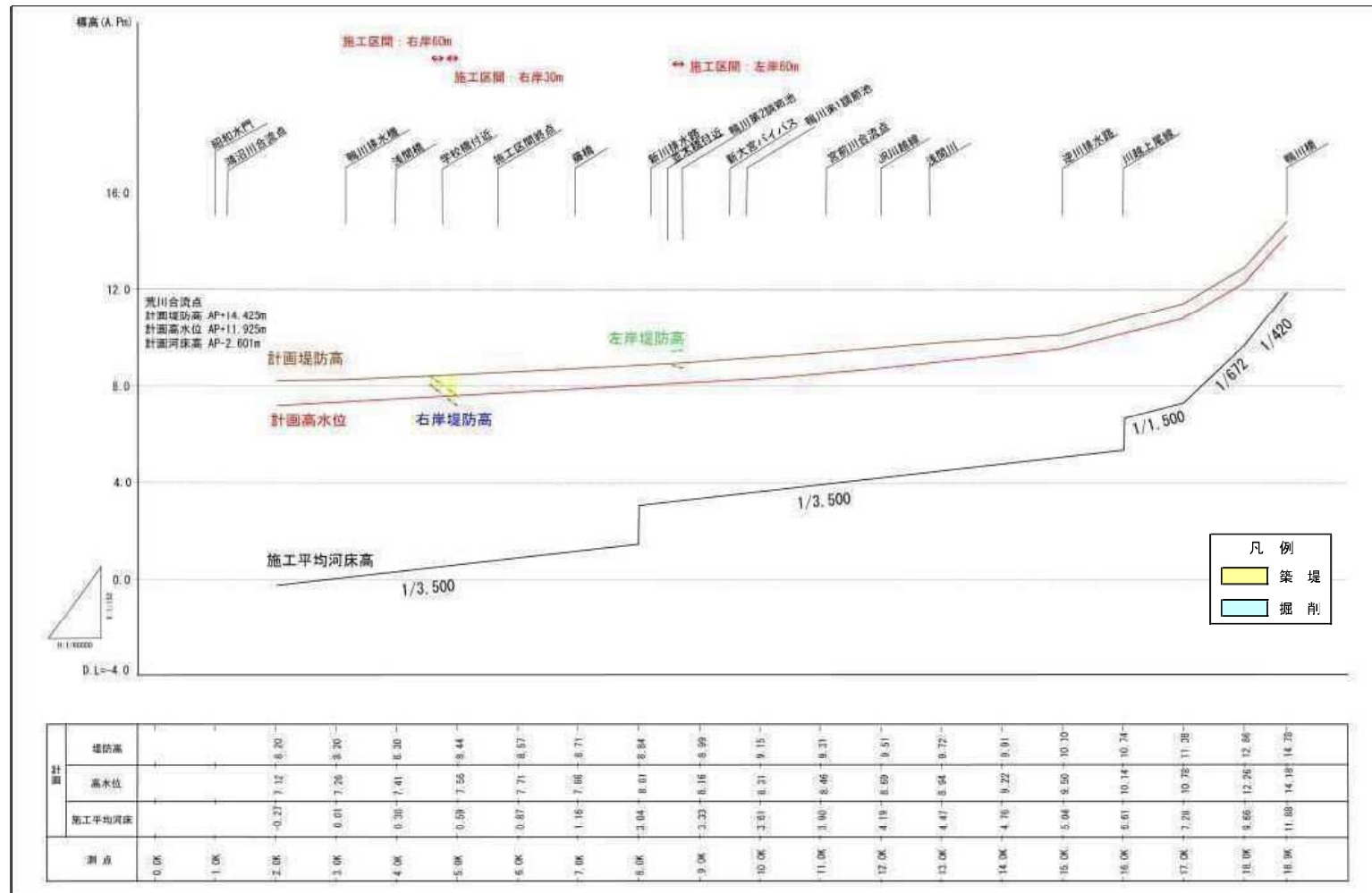
鴨川整備平面図 S = 1/25,000



流量配分図



鴨川縦断面図



流域および河川の概要

- 鴻沼川は、さいたま市北部の大宮台地を水源・流域とし、台地の谷底低地から荒川低地に流れ込み、鴻沼樋門を経て鴨川に合流する、流域面積 14.45km²、流路延長 10.1km の一級河川である。
- 鴻沼川は度重なる浸水被害の発生により、平成 9 年に一級河川に指定された。
- 鴻沼川の特徴は、新幹線、JR 埼京線、JR 高崎線、JR 宇都宮線、国道 17 号等の主要交通網が縦横に走り、また、さいたま市内でも特に人口密度が高い地区を流下している典型的な都市河川であることで、流域の約 9 割が市街化区域に指定されている。

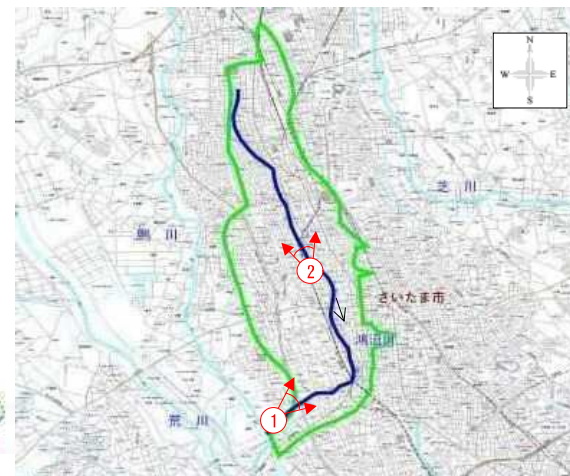
河川整備の概要

- 鴻沼川では、中里橋 (4.90km) から下流区間については浸水被害の防止、軽減のための目標を達成している。よって、河川工事は、中里橋から陣屋橋 (10.10km) までの合計 5.20km において、河道拡幅、河床掘削を行い、流下能力の向上を図るとともに、自然を活かした川の整備や親水性の確保を図る。
- また、5.10km 地点右岸と 7.60km 地点右岸において調節池の整備を行い、洪水流量の低減を図る。

整備にあたっての配慮事項

- 地域住民の憩いの場となるように、周辺の景観と調和した親しみやすい川づくりに配慮する。また、平坦な河床を避け、都市空間の貴重な河川空間の有効利用を図る。

流域図



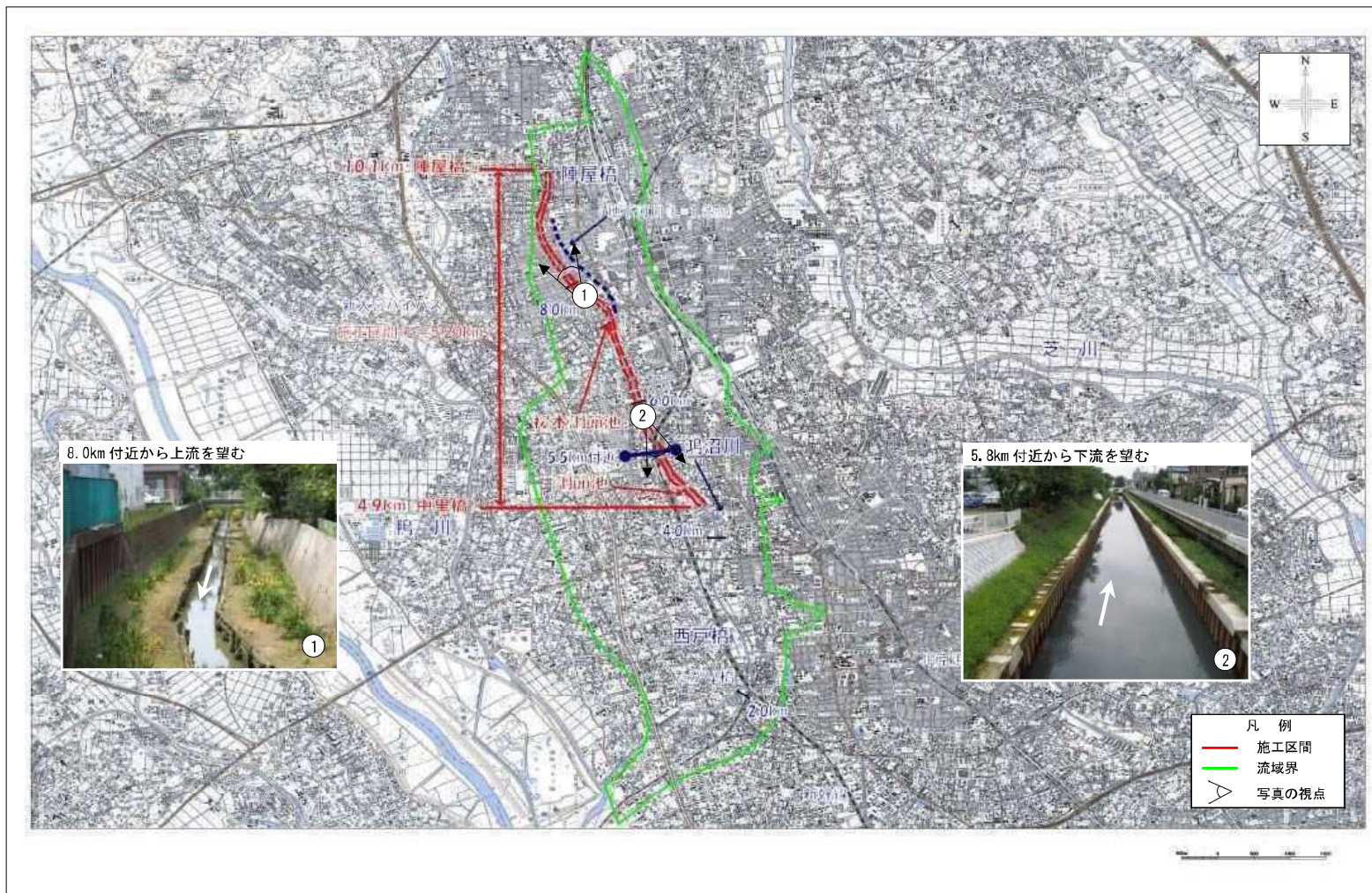
河川沿いの状況

1.0km 付近

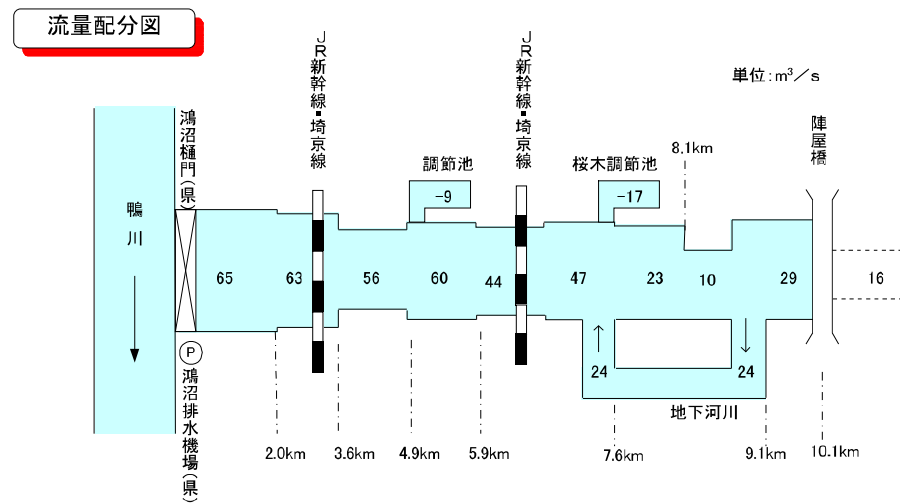
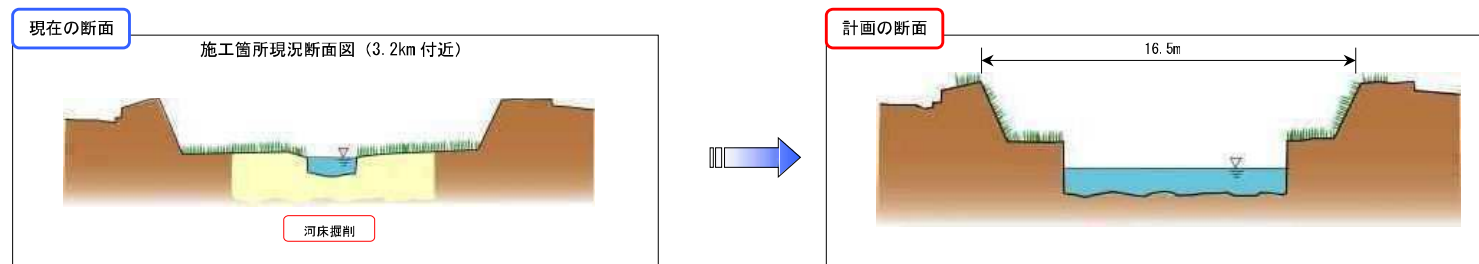


6.0km 付近

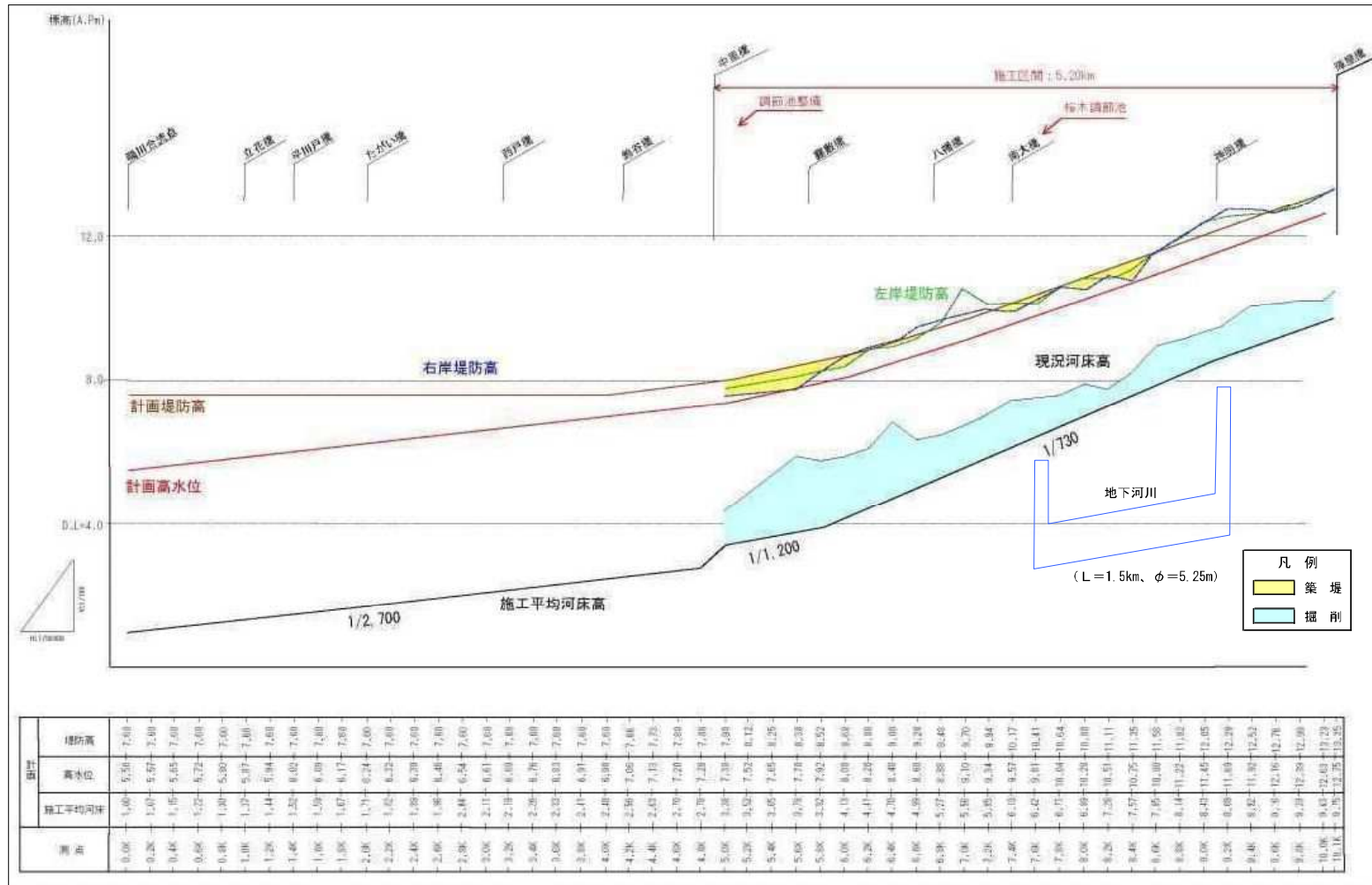




鴻沼川整備平面図 S = 1 / 50,000



鴻沼川縦断面図



流域および河川の概要

- 江川は、鴻巣市南部、北本市中部の大宮台地を水源とし、台地の谷底低地を流下し、宮下樋管を経て荒川に合流する、流域面積17.35km²、流路延長5.19kmの一級河川である。
- 鴻巣市南部、北本市中部、桶川市西部、上尾市西部を流域に持っており、江川は度重なる浸水被害が発生したことから、平成6年に一級河川に指定された。
- 江川の特徴は、流域に良好な自然が残っており、サクラソウをはじめとした多くの湿地性動植物が生息・生育していることである。また、埼玉県の中でも遺跡が多く分布する地域である。近年においては、上流域の台地部や北本市付近で急速に都市化が進み、都市河川へと変貌してきており、流域の約6割が市街化区域に指定されている。
- 江川下流域や荒川本川の中流域は、河畔林や旧流路、水田等の湿地環境が残存する多様な自然環境を有した地域である。首都圏に残された貴重な自然環境として評価され「保全すべき自然環境」として位置づけられている。江川下流域においては、水田を含めた湿地環境をいかに保全・再生・創出を図っていくことが課題となっている。

河川整備の概要

- 江川では、全区間で浸水被害の防止、軽減のための目標を達成してなく、そのため、近年においても浸水被害が生じている。よって、河川工事は、荒川合流点（0.00km）から榎戸橋（5.19km）までの5.19kmにおいて、築堤、河道拡幅、河床掘削を行い、流下能力の向上を図る。
- また、調節池の整備を行い、洪水流量の低減を図る。

整備にあたっての配慮事項

- 江川流域づくり推進協議会で整備内容について検討が行われているため、協議会の意見を尊重して整備を行っていく。
- 現在の自然環境を生かし、平時の現況河道の特性を踏まえた整備を行う。また、長期的な安定を図れる河道とし、改修により影響を受ける動植物の生息・生育環境の保全、復元を図る。
- 河畔林があるところでは、できるだけ河畔林を残せるように河道断面を工夫していく。
- 湿地環境にできるだけ影響を与えないような河道整備を工夫していく。

流域図



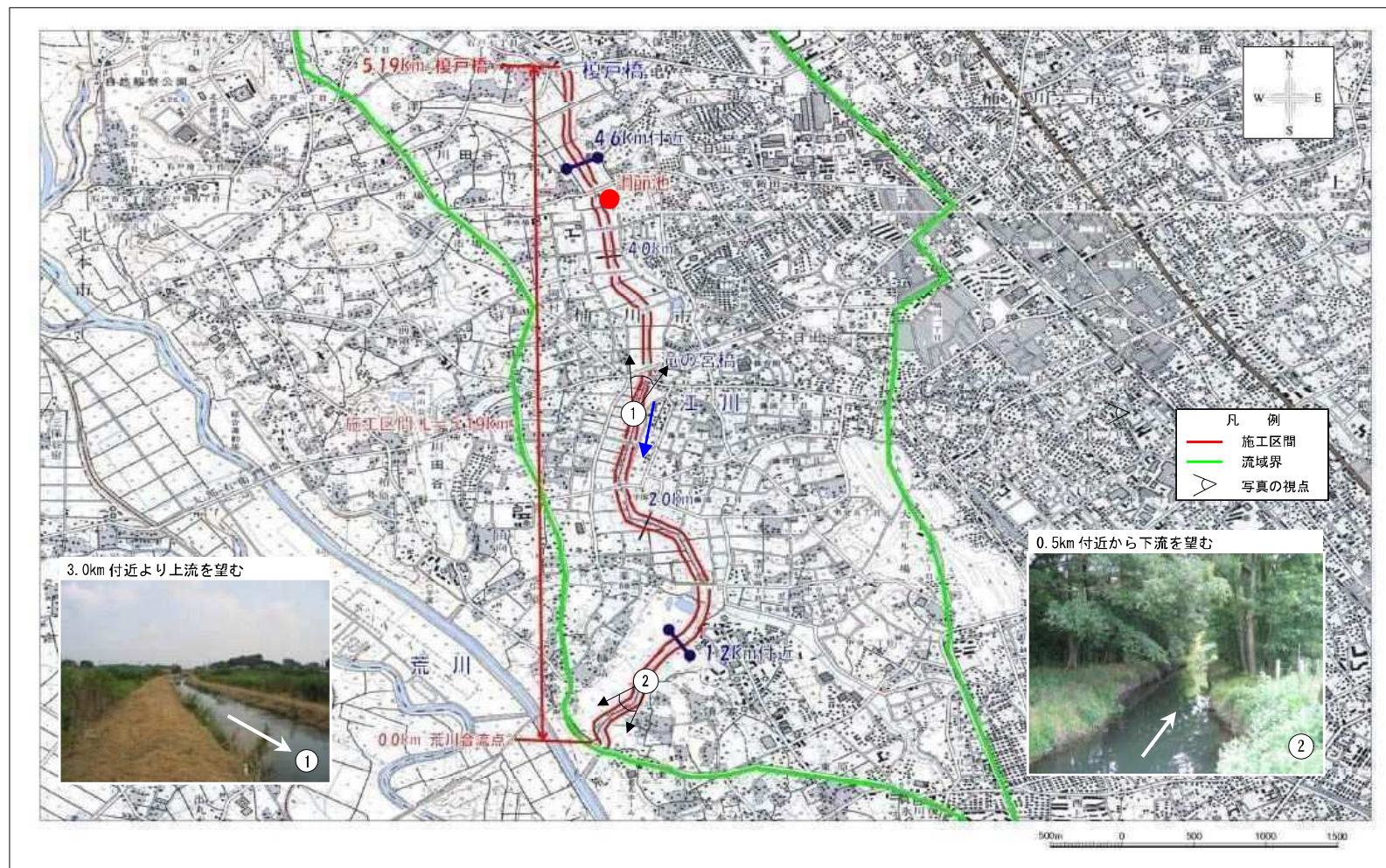
河川沿いの状況

1.5km 付近

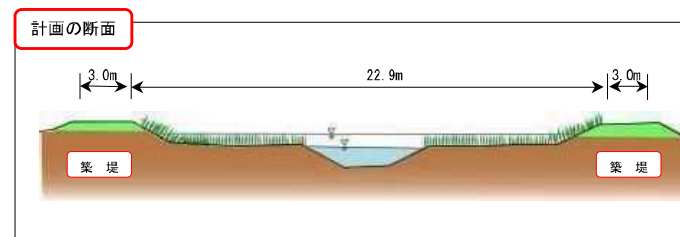
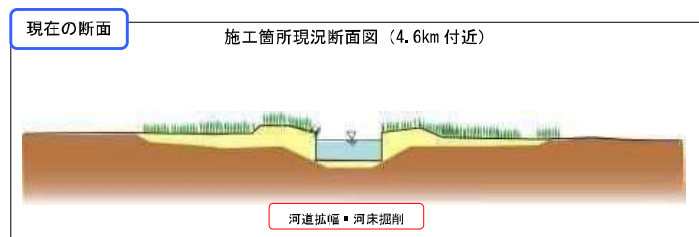
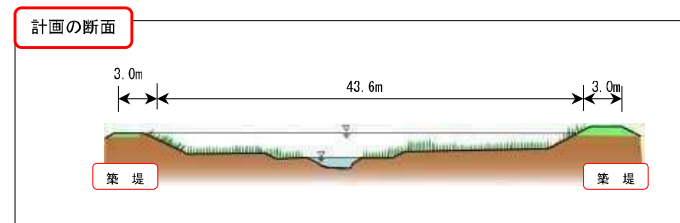
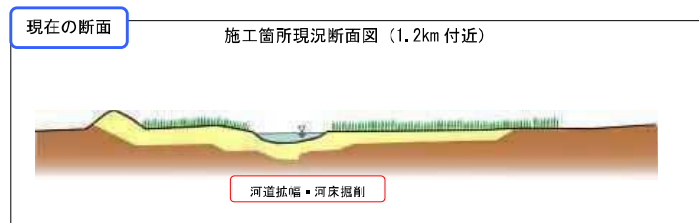


4.5km 付近

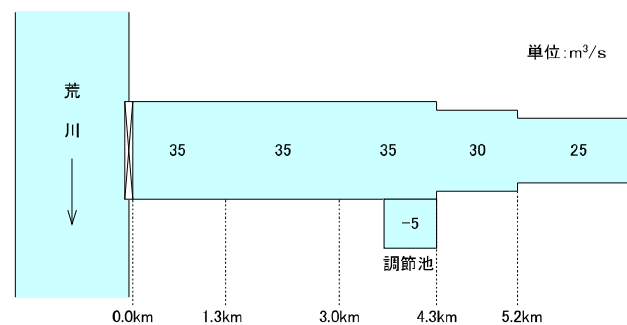




江川整備平面図 S = 1 / 25,000



流量配分図



江川縦断面図

